



7<sup>th</sup>  
Anniversary  
1955 - 2025

# 福田博商店 70周年記念誌

## 発刊のご挨拶



株式会社福田博商店は2025（令和7）年12月29日に設立70周年を迎えます。

振り返りますと、当社は会社設立の2年前、1953（昭和28）年に尼崎製鉄株式会社の高炉再火入れに際し構内で発生する鍋付銑、樋銑の取り扱いを目的に尼崎で創業しました。以来70余年の間、株式会社神戸製鋼所による尼崎製鉄の吸収合併、2度のオイルショック、バブル経済の崩壊、阪神・淡路大震災、リーマン・ショック、コロナ禍など次々に押し寄せる経済の荒波を乗り越えて今日を迎えることができましたのも、ひとえにお取引先並びに株主各位の暖かいご愛顧とご支援、ご鞭撻の賜物と心より感謝申し上げます。また長年にわたって社業発展のために尽力された会社の先輩方、役員、社員の皆様の努力に対して心から敬意を表します。

時代が大きく変化していく中、創業からの歴史を振り返ることで先人たちの努力やお取引先等への感謝の気持ちを持つとともに、過去の歴史を未来へ繋いでいくことが出来ればとの思いで当社では初の記念誌を発刊させて頂きました。

現在当社では鋳物用銑鉄を始めとする主原料の販売の他、様々なお取引先と連携を行い、新たな鋳鉄素形材の開発や販売にも取り組んでいるところです。企業活動にとって利益は重要ですが、その前提として企業は社会に役立つために存在するべきであると考えます。当社といたしましても「存在価値」の追求により、なくてはならない会社として信頼される企業になるべく、たゆまぬ努力を重ねて参る所存です。

関係各位の皆様におかれましては、今後とも一層のご愛顧とご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。発刊のご挨拶とさせていただきます。

2025（令和7）年9月吉日

代表取締役社長 福田 孝

## — 企業理念 —

異業種間の垣根がなくなり、国際間のボーダレス化も加速され、現在はあらゆる分野でグローバル化が進んでいます。

またコンピュータの高度化や情報技術の飛躍的な進化などにより、私たちを取り巻く社会は大きな変革の中にあるといえます。

このような時代の中において、地球環境との調和・共生を忘れることなく、我々はどのような役割を果たすことが可能か追求していきたいと考えています。

わたしたちは社会のために、人類のために、なくてはならない企業でありたいと願い、そのロマンの実現をめざしています。



# 福田博商店 70年の歩みをたどって

## 1953 (昭和28) 年

### 創業

福田博二、個人商店として福田商店を開店。博二の従兄弟で、元尼崎製鉄社長・井上長太夫の指示により、尼崎製鉄構内にある銑鉄の破砕や、鋳物工場への販売を開始する。1955年には法人化し、株式会社福田博商店を尼崎市大浜町2丁目23番地に設立。戦後の復興期、業容は順調に拡大していった。



創業前の博二夫妻（左から福田博二、福田佐十郎〈博二の兄〉、福田艶野〈博二の妻〉）



創立総会議事録



創立時の株主名簿

- 1953年(昭28)
  - 4月 尼崎製鉄株式会社が再火入れ  
個人商店・福田商店を福田博二が開店
  - 6月 川崎製鉄株式会社（現・JFEホールディングス株式会社）千葉第1号高炉（日産600トン）に火入れ
  - 8月 民間放送、テレビ放送を開始
  - 我が国の粗鋼生産高 766万トン
- 1954年(昭29)
  - 11月 株式会社神戸製鋼所が尼崎製鉄に資本参加、経営首脳を派遣
- 1955年(昭30)
  - 12月 福田商店を株式組織とし、株式会社福田博商店を設立（本社所在地：尼崎市大浜町2丁目23番地）  
  
創立総会（発起人：福田博二、福田佐十郎、片岡文治郎、福田艶野、片岡愛吉、木村嘉弘、鹿島喜代司、創立総会検査役：津田太一郎）  
  
福田博二、福田佐十郎、片岡文治郎が取締役就任、鹿島喜代司が監査役就任
  - 我が国の粗鋼生産高 941万トン
- 1956年(昭31)
  - 10月 日ソ国交回復共同宣言
  - 11月 第1回定時株主総会  
津田太一郎、監査役就任
  - 我が国の粗鋼生産高 1,111万トン
- 1959年(昭34)
  - 1月 灘浜第1号高炉火入れ
  - 本社を兵庫県尼崎市大浜町1丁目9番地に移転
  - 我が国の粗鋼生産高 1,663万トン
- 1960年(昭35)
  - 12月 井上千吉郎、井上ぬい、両氏が福田博商店に出資
- 1961年(昭36)
  - 9月 灘浜第2号高炉火入れ
  - 我が国の粗鋼生産高 2,827万トン
- 1964年(昭39)
  - 10月 第18回オリンピック・東京大会開催  
東海道新幹線開業
  - 我が国の粗鋼生産高 3,980万トン

## 1973 (昭和48) 年

### 福田博二、井上長太夫が相次いで逝去

博二と井上が亡くなり、専務取締役であった津田太一郎が第2代代表取締役社長に就任。博二の娘婿で取締役だった福田勝は専務取締役となる。



大阪工業会新人会第2次訪中友好代表団の一員として参加（1978年4月、後列左から4番目が福田勝）



かつて本社があった大興ビル

## 1976～1978 (昭和51～53) 年

### 久保田鉄工との取引開始、神戸製鋼所より技術者を招聘

神戸製鋼所の銑鉄を久保田鉄工に販売開始。当初、取引量は月間500トンだったが、翌年には毎月5,000トンペースに拡大し、久保田鉄工との取引は経営安定に寄与した。また、1978年に神戸製鋼所尼崎製鉄所第2号高炉の操業が休止したことをきっかけに、電気炉用鋳鉄材料の開発に着手。尼崎製鉄所の鋳物銑担当だった西村禎夫氏を開発担当者として招聘し（神戸製鋼所から出向、のちに入社）、技術力を高めた。



神戸市御影の「蘇州園」にて、創立20周年記念家族懇親会での集合写真（1975年、前列右から5番目が津田太一郎、3列目右端が福田真紀子、その左後ろが福田勝）

- 1965年(昭40)
  - 4月 尼崎製鉄が神戸製鋼所と合併
  - 7月 名神高速道路全線開通
  - 11月 井上長太夫が相談役に就任、津田太一郎が取締役就任、村岡章好が監査役就任
  - 我が国の粗鋼生産高 4,116万トン
- 1967年(昭42)
  - 11月 福田勝が社外取締役就任
- 1969年(昭44)
  - 5月 本社を尼崎市元浜町5丁目10番の2に移転
- 1970年(昭45)
  - 8月 加古川製鉄所第1号高炉火入れ  
  
八幡製鉄株式会社と富士製鉄株式会社が合併し新日本製鉄株式会社発足
  - 10月 福田勝入社、取締役就任
  - 我が国の粗鋼生産高 9,332万トン
- 1971年(昭46)
  - 8月 ドルショック（ニクソンショック）1ドル360円が308円に移行
- 1972年(昭47)
  - 2月 第11回冬季オリンピック・札幌大会開催
  - 5月 沖縄復帰・沖縄県発足
- 1973年(昭48)
  - 1月 加古川製鉄所第2号高炉火入れ
  - 2月 円変動相場制に移行  
  
井上長太夫逝去  
  
創業者・福田博二逝去により、津田太一郎が代表取締役社長に就任
  - 10月 第1次オイルショック
  - 我が国の粗鋼生産高 1億 1,932万トン
- 1976年(昭51)
  - 久保田鉄工株式会社（現・株式会社クボタ）と直接取引開始（荒銑）
- 1977年(昭52)
  - 7月 津田太一郎逝去  
  
福田勝が代表取締役社長に就任
- 1978年(昭53)
  - 2月 加古川製鉄所第3号高炉火入れ
  - 3月 尼崎製鉄所の第2号高炉を休止
  - 久保田鉄工に製鋼用銑、可鍛コナ納入開始
  - 我が国の粗鋼生産高 1億 211万トン

1992 (平成4) 年

### キャストロイ (EP 鋳) 誕生

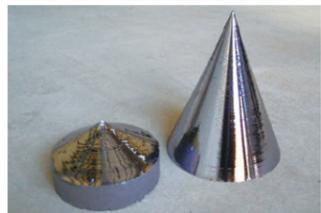
神戸製鋼所と共同で、C (炭素)、Si (珪素) の含有量を共晶点に合わせた EP 鋳の開発に成功。「キャストロイ」の商品名で販売を開始する。融点が従来の鋳鉄に比べて低く、鋳物の品質を向上させると共に、省エネや環境保全にも貢献する素材である。「溶解効率の優れた鋳物用鋳鉄」として特許を出願し、1970 年代末から続く鋳物材料の開発が大きな実を結んだ。



「キャストロイ物語」  
(神戸製鋼所、1994 年)



共晶組成され、表面が滑らかになった  
キャストロイ (EP 鋳)



ソーラーパネル原料の高純度シリコン塊

- 1979 年 (昭 54)
  - 1 月 第 2 次オイルショック
  - 川端駿吾氏「技術革命と物性論」出稿
- 1983 年 (昭 58)
  - 電気炉用鋳鉄材料の研究開発を神戸製鋼所と共同で進める。順次、SM 鋳 (低マンガン・低硫黄)、SP 鋳 (低マンガン・低硫黄・低燐) を開発・販売
- 1985 年 (昭 60)
  - 9 月 プラザ合意によりドル高を修正することとなる (1ドル 230 円台が 1988 年には 1ドル 120 円台へ)
  - 我が国の粗鋼生産高 1 億 528 万トン
- 1987 年 (昭 62)
  - 9 月 尼崎製鉄所の高炉操業停止、鋳物用鋳鉄生産が加古川・神戸両製鉄所に集約される
  - 10 月 ニューヨーク株式市場で株価大暴落、下落率 22.6% となり、1929 年の大恐慌を上回る (ブラックマンデー)
  - 我が国の粗鋼生産高 9,851 万トン
- 1988 年 (昭 63)
  - 4 月 本州四国連絡橋・瀬戸大橋 (児島-坂出ルート) 開通
- 1989 年 (昭 64 / 平元)
  - 1 月 昭和天皇崩御 (87 歳)、皇太子明仁親王即位 (新元号「平成」に改元)
- 1990 年 (平 2)
  - 3 月 「赤錆の発生しにくい鋳物用型鋳の製造方法」に関する特許出願
  - 我が国の粗鋼生産高 1 億 1,034 万トン
- 1991 年 (平 3)
  - 1 月 湾岸戦争勃発、多国籍軍がイラクを攻撃
- 1992 年 (平 4)
  - 12 月 地球環境や省エネ、および鋳鉄の品質向上に有効な材料で C (炭素)、Si (珪素) の含有量を融点が最も低い共晶点に合わせた EP 鋳 (融点 1,150°C) を開発・販売を開始、商品名をキャストロイと命名
- 1994 年 (平 6)
  - 2 月 キャスタロイ (EP 鋳) を「溶解効率の優れた鋳物用鋳鉄」として特許申請
- 1995 年 (平 7)
  - 1 月 阪神・淡路大震災発生 (死者・行方不明者 6,437 人)
  - 3 月 東京・営団地下鉄で地下鉄サリン事件発生 (12 人死亡、重軽傷者約 5,000 人)
  - 4 月 円相場・1ドル 79 円台の最高値を記録
  - 我が国の粗鋼生産高 1 億 164 万トン
- 1996 年 (平 8)
  - 9 月 「赤錆の発生しにくい鋳物用型鋳の製造方法」に関する特許の認定を受ける (1990 年に神戸製鋼所と共同出願)



新社屋の地鎮祭 (2002 年 12 月)

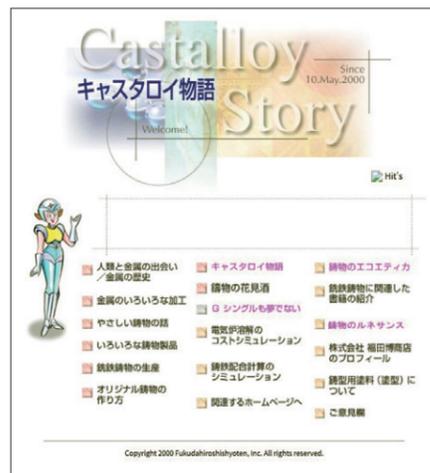
- 1997 年 (平 9)
  - 11 月 山一証券株式会社が自主廃業し戦後最大の倒産 (負債総額約 3 兆 5,000 億円)
  - 12 月 COP3 (気候変動枠組条約第 3 回締約国会議、京都会議) にて先進国の温室効果ガス排出削減目標を定めた「京都議定書」を採択
- 1998 年 (平 10)
  - 2 月 第 18 回冬季オリンピック・長野大会開催
  - 4 月 世界最長の吊橋・明石海峡大橋開通
  - 5 月 福田勝著『鋳物のエコエティカ』(日本鋳物工業新聞社) 出版
  - 10 月 鉄筋用継手 (カプラー、KN スリーブ) を開発し、販売を開始
- 1999 年 (平 11)
  - 1 月 ソーラーパネル用の原材料として、高純度シリコンをシャープ株式会社に初納入。これを契機に、高純度シリコンの取り扱いを開始
  - EU 通貨統合、単一通貨「ユーロ」発行
  - 4 月 福田孝入社
- 2000 年 (平 12)
  - 3 月 会社 HP 開設
  - 5 月 日本鋳造工学会全国大会 (名古屋) で講演ならびにパネル展示を実施
  - 我が国の粗鋼生産高 1 億 644 万トン
- 2002 年 (平 14)
  - 4 月 神戸製鋼所神戸発電所の第 1 号機 (出力 70 万 KW) が営業運転を開始
  - 5 月 サッカーワールドカップ日韓大会開催
  - 福田勝著『鋳物の花見酒 (鐵のライフサイクルアセスメント)』(日本鋳物工業新聞社) 出版
  - 9 月 JFE ホールディングス設立
  - 11 月 経営革新計画の認定を受ける
- 2003 年 (平 15)
  - 2 月 ホテルニューアルカイク (現・都ホテル 尼崎) にて、50 周年記念祝賀会開催
  - 現住所 (兵庫県尼崎市大浜町 1 丁目 43 番地) に本社、大浜倉庫、鋳鉄ヤードが完成
  - 現住所に本社を移転
  - 10 月 福田勝著『鋳物のルネサンス』(福田博商店) 出版



竣工時の事務フロア



竣工時の現社屋



ホームページ開設時のトップ画像 (2000 年)

1999 (平成 11) 年

### 高純度シリコンの取り扱い開始

高純度シリコンのスクラップを選別・加工して販売する事業を開始。選別・加工は下請け会社「福田工業」が、シリコンスクラップの仕入れと素材の販売は当社が担う。高純度シリコンは太陽電池などの原料に利用され、2000 年代半ばには会社の売り上げの半分を占めたが、2008 年のリーマン・ショック後、中国企業によるソーラー事業大量参入により事業は縮小し、福田工業は 2012 年に解散。



社屋内にて竣工の記念撮影 (前列中央が福田孝、後列左から 2 番目が福田勝)

2007 (平成19) 年

リーマン・ショックによる大打撃

同年11月、金融危機が発生(リーマン・ショック)。高騰していた高純度シリコンと鉄スクラップの相場が暴落したこと、「有事の円買い」による超円高により輸入鉄が国内鉄よりも割安になったことが影響し、福田博商店の売り上げは70%近く下降。危機を乗り越えるべく、2004年に特許認定を受けたキャストロイの販売に注力していった。



現代取締役社長・福田孝の就任記事  
 (『鉄鋼新聞』関西版、2008年3月13日)



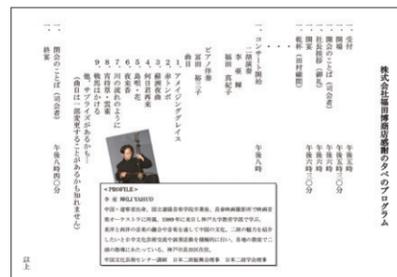
2009年の日本刀の贈呈(左から神戸製鋼所佐藤廣士社長、刀匠安藤幸夫氏、福田勝、川崎正藏氏(元神戸製鋼所))



日本刀になったキャストロイ  
 (『日本鑄物工業新聞』  
 2012年3月10日)

- 2004年(平16)
  - 4月 神戸製鋼所神戸発電所の第2号機が営業運転を開始
  - 7月 キャスタロイ(EP鋳)の特許の認定を受ける(1994年に神戸製鋼所と共同出願)
  - 8月 第1回社債発行(2011年第6回発行)
    - 日本の人口がピークを迎える(約1億2,777万人)
- 2005年(平17)
  - 3月 愛知万博「愛・地球博」開催
    - 我が国の粗鋼生産1億1,248万トン
- 2006年(平18)
  - 3月 大浜第2倉庫竣工
- 2007年(平19)
  - 6月 初代iPhoneがアメリカで発売される(日本は2008年発売開始)
  - 9月 ホテルニューアルカイクにて、「感謝のタベ」開催(福田勝・代表取締役社長退任パーティー)
    - 福田勝、会長に就任
    - 福田孝、代表取締役社長に就任
- 2008年(平20)
  - 3月 『鉄鋼新聞』に社長就任記事掲載
  - 6月 『日刊市況新聞』にEP鋳活用の有用性に関する記事掲載
  - 9月 アメリカの大手証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻(リーマン・ショック)
- 2009年(平21)
  - 1月 『鉄鋼新聞』コラムに記事掲載
  - 9月 高純度鉄鋳で製作した日本刀を神戸製鋼所・代表取締役社長佐藤廣士氏に贈呈
- 2010年(平22)
  - 1月 日本航空株式会社が会社更生法適用申請
  - 5月 福田勝、日本鑄造工学会技術賞受賞
    - 我が国の粗鋼生産1億960万トン
- 2011年(平23)
  - 3月 東日本大震災が発生し(M9.0、最大震度7)、東北や関東の沿岸に10m超の津波が押し寄せ、死亡者1万5,897人・行方不明者2,533人
- 2012年(平24)
  - 3月 『日本鑄物工業新聞』より刀の取材を受ける
  - 5月 東京スカイツリーがオープン
  - 7月 福田工業株式会社解散
  - 9月 兵庫県から福田勝が「のじぎく賞」表彰を受ける
  - 10月 グローバル技術連携支援事業の認定を、株式会社浅田可鍛鉄所(現・武蔵キャストリング株式会社)と共に受ける

新日本製鐵と住友金属工業株式会社が合併し、  
 新日鐵住金株式会社が誕生  
 (2019年4月に日本製鉄株式会社に名称変更)



2007年開催・「感謝のタベ」プログラム

- 2014年(平26)
  - 3月 日本一の高層ビル・あべのハルカス全面開業
- 2015年(平27)
  - 我が国の粗鋼生産1億513万トン
- 2016年(平28)
  - 3月 尼崎市市制100周年に合わせ、スポーツニッポン新聞社・毎日新聞社主催将棋王将戦実施  
 尼崎将棋普及実行委員会(委員長福田勝)が誘致
  - 5月 伊勢志摩サミット開催
- 2017年(平29)
  - 1月 クボタから永年取引40周年感謝状を受ける
  - 11月 神戸製鋼所、神戸製鉄所上工程休止
- 2018年(平30)
  - 9月 尼崎城築城寄付を行い尼崎市長から表彰を受ける
- 2019年(平31/令和元)
  - 3月 神戸製鉄所上工程休止記念オブジェとしてコーロクンを製作
  - 5月 新元号「令和」に改元
  - 10月 CSR規程制定
- 2020年(令2)
  - 4月 日本鑄造工学会関西支部より特別表彰を受ける  
 新型コロナウイルスの感染拡大を受け、初の緊急事態宣言を発令
    - 我が国の粗鋼生産8,319万トン
- 2021年(令3)
  - 12月 コベルコ神戸スチーラーズヘタッチエンブレム・錨を贈呈  
 コベルコ神戸スチーラーズとスポンサー契約を結ぶ
- 2022年(令4)
  - 3月 『日本鑄造工学会関西支部通信』第9号で会社訪問記事が掲載される
- 2024年(令6)
  - 1月 能登半島地震が発生
  - 4月 映画「あまろっく」に協賛し、集合写真が映画エンディングに掲載される
- 2025年(令7)
  - 4月 大阪府で日本国際博覧会(大阪・関西万博)が開催



コベルコ神戸スチーラーズの橋本皓氏(当時副キャプテン)に、福田孝社長よりタッチエンブレムを贈呈



社内に映画「あまろっく」エンディング用写真撮影



クボタより拝受した永年取引40周年感謝状



尼崎市長より拝受した尼崎城築城寄付に関する感謝状



日本鑄造工学会関西支部より拝受したコーロクンの表彰状



2004年から2011年にかけて、合計6回発行された社債

2019 (平成31/令和元) 年

記念オブジェ「コーロクン」製作

神戸製鋼所神戸製鉄所の上工程休止に伴い、最終出鉄の鉄鋳を使った記念品製作を神戸製鉄所製鋳室長・豊田人志氏から、「鑄物のことなら福田博商店」と直接依頼を受ける。神戸製鋼所、株式会社三共合金鑄造所、株式会社撰津金属工業所、大阪市立デザイン教育研究所がプロジェクトチームを結成し、コベルコ神戸スチーラーズのマスコットキャラクター「コーロクン」をモチーフにしたオブジェを製作。その後、チームシンボルとなるタッチエンブレム提供、パートナー契約へとつながっていった。

# 歴史秘話

創業からキャストロイ（EP 銑）  
誕生まで

会社を大きく飛躍させ、鋳物業界の発展にも貢献した「キャストロイ（EP 銑）」の開発までの道のりを詳細にたどる。



福田真紀子（現・監査役）と共に、井上長太夫へ  
新年の挨拶に向かう福田博二（1964年）



福田勝編纂『井上長太夫傳』  
（福田博商店、2023年）

1951-1998

## 1 戦後復興の中での発足

### 会社の生いたち

1951（昭和26）年、尼崎製鉄株式会社の創業者であり戦時中、社長を務めていた井上長太夫は公職追放を解かれた。復帰した井上は、さっそく製鉄所の復興に着手したが、戦時中、アメリカ軍の空襲に遭った製鉄所の構内には、銑鉄の大きな塊が散乱していた。井上は、その破碎や処理を従弟の福田博二に任せた。1953（昭和28）年、尼崎製鉄の歴史的再建が達成され、火入れが挙行されたのを機に、博二は福田商店を創業する。

### 事業内容と法人化

事業目的は、構内で破碎処理された銑鉄の小塊や、「荒銑」とよばれる銑鉄の級外品を鋳物工場に販売することと、戦争の傷跡というべき市中に散乱する鉄屑を、高炉の鉄源として製鉄所に納入することである。日本が戦後の混乱から立ち直りを見せると同時に、博二は業容を拡大させ、1955（昭和30）年には法人化し、株式会社福田博商店を設立した。

## 2 銑鋼一貫と久保田鉄工との取引開始

### 川端駿吾氏との出会い

1970（昭和45）年、博二の娘婿・福田勝が入社し、取締役役に就任する。

この年、井上から呼び出された勝は川端駿吾氏を紹介された。川端は九州帝国大学工学部冶金学科卒業後、奥村電機株式会社を経て久保田鉄工株式会社（現・クボタ株式会社）に入社している。戦前、久保田鉄工から尼崎製鉄に出向後、常務取締役となっ

て高炉建設を担当。戦後は久保田鉄工でダクタイル鋳鉄の技術を導入し、我が国の鋳物業界の重鎮として、長く久保田鉄工の常務取締役を務めた。

尼崎製鉄は1937（昭和12）年、井上と久保田鉄工の久保田権四郎氏が設立した会社であった。井上は社長を務める株式会社尼崎製鋼所を、屑鉄による製鋼法から脱却させることをめざしており、久保田も久保田鉄工の鋳鉄管を直鋳で行いたいという目論見があった。尼崎製鉄と尼崎製鋼所、久保田鉄工で銑鋼一貫生産体制を確立しようと考えたのである。

井上は、勝と会社の行く末を案じて、尼崎製鉄の高炉建設で指導を受けた川端を指南役として紹介し、福田博商店は川端を顧問として迎えた。

### 果たせなかった銑鋼一貫の夢を引き継ぐ

1973（昭和48）年2月、会社の後ろ盾ともいえるべき井上と社長の博二が相次いで逝去。急遽、専務取締役の津田太一郎が社長、取締役の勝が専務取締役に就任した。

かつて、津田は尼崎製鋼所の一次商社で経理業務に従事していた。しかし、尼崎製鋼所が株式会社神戸製鋼所傘下に入ったため、井上の紹介で福田博商店に週2日ほど出社し、経理を担当するようになった後、専務として迎え入れられたのである。

この年の10月、第1次オイルショックが勃発。鉄鋼業界は未曾有の不況に見舞われ、神戸製鋼所尼崎製鉄所（1965年、尼崎製鉄は神戸製鋼所尼崎製鉄所となる）には、ヤードはもちろん建屋と建屋の間にまで20万トンに及ぶ銑鉄が山積みされており、地盤沈下が危ぶまれるほどであった。当社にもまた、倉庫に2,000トンを超える在庫が溜まっていた。

勝はこの状況を打開すべく、久保田鉄工の顧問・尾本秀為氏に助言を求めた。尾本は博二と戦前からの知己で、井上とも旧友の間柄。業界の重鎮であった（元富士製鐵常務取締役・鉄鋼連盟銑鉄需給委員会委員長）。

当時、勝の脳裏には久保田鉄工が離れずにあっ

SPECIAL MESSAGE /

穏やかな人柄が  
印象的な初代博二社長



元社員 山村連美（やまむら・はすみ）さん

私が入社したのは1972（昭和47）年のことです。そのころは初代の博二さんが社長で、社員は8名ほど。私は事務仕事をしていました。

お昼になると、営業の方はみんな出て、事務所にいるのは私と博二社長、経理の人ぐらい。私は暇になると、当時会社が入っていたビルの隣室にいた会社の事務員さんと、おしゃべりしたりして過ごしていました。すると、博二さんがやって来て「山村さん、お茶を1杯いれてくれない?」って言うんです。私は「すみません!」ってなって。博二社長は本当に穏やかな人で、口数は多くなかったですね。会社の社長といえば、少し鼻が高いイメージがあったんですが、全然そんなことなく、頭は低い言葉遣いはとても穏やか。仏さんのような人でした。

博二社長だけじゃなくて、次の津田社長も同じような感じの方でしたね。「類は友を呼ぶ」という言葉どおり、人が人を呼ぶのでしょう。



1941年に尼崎製鉄所の操業を記念して設置され、1987年の全面休止の後、当社に移設された石碑

た。尼崎製鉄のすぐ隣にある久保田鉄工は戦前、尼崎製鋼所と共に銑鉄一貫の夢を抱いたが叶わず、自社で実現できればという思いを強くした勝は、顧問の川端を交え、久保田鉄工社長・広慶太郎氏に神戸製鋼所が持つ銑鉄の購入を懇願し、了承を得た。

1976(昭和51)年、福田博商店は久保田鉄工と取引を開始し、神戸製鋼所で製造された銑鉄を納入。当初は荒銑(形状不良の銑鉄)月間500トンの取引であったが、当社のヤードにあった在庫は1~2年で解消した。

### 福田勝、第3代社長就任

1977(昭和52)年に津田社長が逝去、勝が社長に就任したが、1979(昭和54)年1月に第2次オイルショックが勃発。暗澹たる心情の勝に久保田鉄工の河井貞一副社長から電話があった。月間5,000トンほど、神戸製鋼所の銑鉄を供給してほしいという依頼である。

勝が神戸製鋼所の銑鉄営業担当である松本三郎部長に相談を持ちかけたところ、神戸製鋼所の社内で話がまとまり、商談は成立。神戸製鋼所尼崎製鉄所にあった約20万トンの在庫は3年ほどで解消した。大量の鉄源を市中に頼らずに確保でき、久保田鉄工からも感謝された。当社は久保田鉄工の武庫川工場・恩加島工場・尼崎工場へ毎月5,000トンをベースに銑鉄を納入し、経営も安定した。

## 3

### 業容拡大に向け、 鋳物用銑鉄を開発

#### 電気炉向け鋳物用銑鉄の開発へ

1978(昭和53)年3月、神戸製鋼所尼崎製鉄所の第2号高炉が稼働休止になったことを受け、勝は所長の森脇延年氏と鋳物用銑鉄の今後について話し合う機会を得た。会社の経営の安定化を機に、電気炉

用の鋳物用銑鉄を開発しようとしていた勝は、尼崎製鉄所で鋳物用銑鉄担当課長だった西村禎夫氏を当社に招き、電気炉向け鋳物用銑鉄の開発担当とした。

さらに1979(昭和54)年、勝は顧問の川端駿吾から自筆論文「技術革命と物性論」を受け取り、論文中の一節を見た瞬間、「これだ!」とひらめく。それは以下のような内容である。

「現在の製鋼用銑鉄の成分を安直に鋳物用銑に供す研究は、現時鋳物事業の不況対策として雄なるところだろう。溶銑の物性を突込んで考えれば、前記溶体の元素を『ろ過』手段で復元分離するように、遠心力を導入して種々分離或いは偏在している害毒を排除するなど、革新技術が発見されるやも知れない」。

このころ、鋳物業界の溶解手段はキュボラと電気炉に二分され、キュボラでは銑鉄、電気炉では鋼屑が主原料に用いられており、電気炉で銑鉄は使われていなかった。

当社が電気炉向け鋳物用銑鉄の開発に向けて体制を整えつつあったのと前後して、ダクタイル鋳物製造メーカーから、製鋼用銑鉄のMn(マンガン)含有率を下げしてほしいという要望が、1978年ごろにもたらされた。当時、神戸製鋼所はMn(マンガン)滓のカットや低Mn(マンガン)鉍石の配合で対応したが、ダクタイル鋳鉄はほとんど電気炉で製造され、その原料となる銑鉄はなかった。勝は開発方針を「電気炉向けダクタイル鋳鉄用銑鉄の研究」と定め、当社と神戸製鋼所で共同研究を進めることとした。

#### SM銑そしてSP銑へ：急ピッチで進む開発

1983(昭和56)年、研究を進めるうちに、製鋼用銑鉄の溶銑を脱硫するだけで、高純度・低S(硫黄)低Mn(マンガン)の低周波電気炉向けダクタイル鋳鉄用銑鉄が製造できることが分かった。SM銑の誕生である。需要家に販売を開始したが、しばらくしてP(燐)の含有率が高い不良があったというクレームが発生した。



大阪工業会新人会中華民国(台湾)訪問団の一員として経済交流会に参加(1984年11月、左から5番目が福田勝)



大阪工業会新人会アイルランド訪問団の一員としてリムリック大学(国立大学)との交流会に参加(1994年9月、2列目右から2番目が福田勝)

## SPECIAL MESSAGE 2

### トップが指図しない 自由な社風

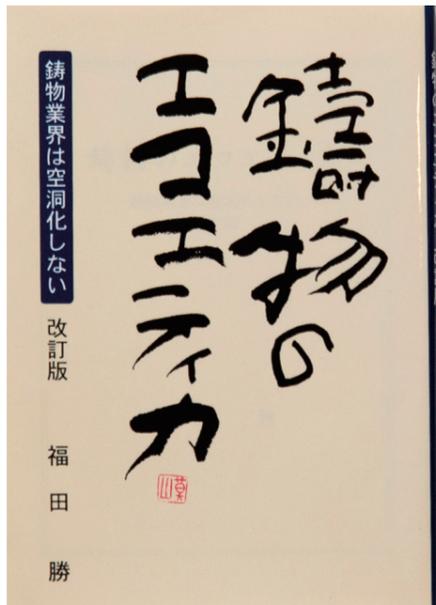


顧問 前原正章(まえはら・まさあき)さん

1973(昭和48)年4月、2代目の津田社長と僕の親父が親友だった縁で入社しました。僕はホテル業界にいて、鋳物業界のことは分からなかったのですが、津田さんは「親友の息子やしええか」という感じで引き受けてくださったのでしょう。温厚で紳士という感じの人でしたね。

津田社長も勝専務も、基本的には「ああせえ、こうせえ」という指図をしなかったですね。営業担当が4人いて、それぞれがお客さんとのやり取りを完全に任されていました。

先輩と一緒に営業に出ると、「僕もしゃべりたい」と欲が出て、営業先を分けてもらえるようになりました。ちょうどいい若者が入ったから育てよう、という感じだったのでしょ。



福田勝著『鑄物のエコエティカ (改訂版)』  
(日本鑄物工業新聞社、1998年)

使用材料を全て分析したところ、電磁鋼板スクラップのP(燐)の値が異常に高いことが判明した。そこで、神戸製鋼所の薄板販売担当課長に依頼し、薄板材質の今後の動向について薄板の大手需要家にヒアリングしてもらったところ、「10年もすれば、鋼材の高張力化および表面処理鋼板の増加により、P(燐)、S(硫黄)、Mn(マンガン)、Cr(クロム)、Zn(亜鉛)などのダクタイル鑄物に有害な元素の混入が長期的に予想される」とのことであった。このままでは、やがてダクタイル鑄物は製造できなくなる。

そこで、当社と神戸製鋼所は低S(硫黄)・低Mn(マンガン)に加え、低P(燐)の性質も持ったダクタイル鑄鉄用銑鉄の開発に取り組んだ。溶銑予備処理装置で酸素吹精を行うことで、脱P(燐)処理とSi(珪素)の酸化低減が実現したSP銑が誕生したのである。このSP銑を、低周波電気炉用の高純度ダクタイル鑄鉄用銑鉄として市場に投入した。

だが、またもや問題が発生する。酸素吹精の際、溶銑中に多量の酸素が入るが、鑄銑の冷却時に酸素または二酸化炭素となって放出されるため、銑鉄の表面がクレーター状となり、内部にも気泡巣が生じてしまったのだ。Fe-Si合金を添加することで問題を解決できたが、このFe-Si合金添加が後の大発見につながることは、誰も予想しなかった。

### プラザ合意と製鉄所の統廃合

1985(昭和60)年のプラザ合意により、1986(昭和61)年には1ドル230円、1987(昭和62)年には1ドル120円と急速な円高が進行した。日本企業は工場の海外移転や海外発注、工場閉鎖、廃業、倒産の波にさらされてゆく。

そのような中、1986年に当社の技術顧問だった西村氏が急逝する。間髪を入れず、尼崎製鉄所所長の田中孝三氏から、神戸製鋼所に在籍していた谷口浩平氏を紹介され、顧問として当社に迎え入れることができた。素材開発に必要な技術の断絶を免れたのである。

1970年代後半から80年代半ばにかけて、神戸製鋼所は製鉄所の合理化を進め、1983(昭和58)年には神戸製鉄所第1号高炉、第2号高炉、さらに1987年には尼崎製鉄所第1号高炉が休止。1979(昭和54)年の第2次オイルショックからプラザ合意までの7年弱の間で、4つの高炉が休止した。

尼崎製鉄所第1号高炉は1941(昭和16)年の火入れ後、戦時戦後の壊滅状態を経て、1953(昭和28)年に再火入れし、戦後復興の一翼を担った。

### 尼崎製鉄所全面休止、鑄物用銑鉄の生産は神戸・加古川両製鉄所へ

1987(昭和62)年、神戸製鋼所尼崎製鉄所の高炉が全面休止となり、鑄物用銑鉄の生産は同神戸製鉄所と加古川製鉄所に移管された。

ある日、両製鉄所から急遽、勝に「相談がある」と呼び出しがかかり、就任直後の谷口顧問と共に、神戸製鉄所と加古川製鉄所に1日ずつ出向いた。それぞれの製鉄所から出席した製銑部長、次長、課長、製鋼部長、次長、課長を前に、勝は鑄物業界の現状や課題などを語り、問題点について意見を交わした。

これをきっかけに、コミュニケーションが円滑に進み、特許申請や新製品の開発などでもスムーズに事が運んだ。当社にとって非常に有意義な出来事だったといえるだろう。

## 4 キャスタロイ (EP 銑) の誕生

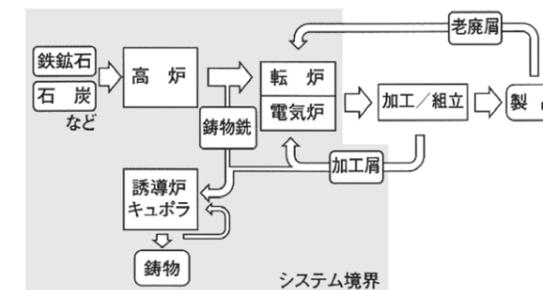
### 赤錆を少なくする銑鉄の製法で特許取得

低周波電気炉向けの銑鉄(SP銑)を扱うようになり、勝は銑鉄の赤錆が気にかかっていた。社内の銑鉄ヤードは露天であるため、半年もすると銑鉄が真っ赤に錆び、ダンプで納品すると多量の赤錆の粉

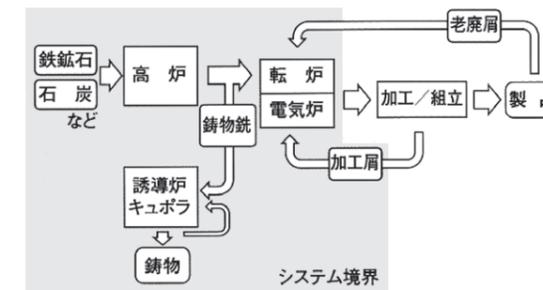


日本鑄造工学会よりEP銑の開発で「技術賞」を受賞(2010年5月)

### 現状プロセス



### 改善プロセス



キャストロイ (EP 銑) 活用により期待される鑄鉄製造プロセス  
(「エポックメイキングな技術と評価されたキャストロイ (EP 銑)」  
福田博商店、2002年)



福田勝著『鑄物の花見酒（鐵のライフサイクルアセスメント）』（日本鑄物工業新聞社、2002年）  
福田勝著『鑄物のルネサンス』（福田博商店、2003年）

塵が発生した。赤錆の発生量は銑鉄重量の約0.5%あると言われており、鉄源の大きな損失である。勝は神戸製鋼所と共同で赤錆対策を研究し、以下の対策を講じた。

1. 鑄鉄機で一次冷却し、離型された銑鉄をミストまたは水蒸気で冷却。マグネタイト被膜 (Fe<sub>3</sub>O<sub>4</sub>) を形成する。
2. 鑄型内面にFeOとSiO<sub>2</sub>のスラグ皮膜剤を施す。鑄銑時にスラグ皮膜剤は溶解され、銑鉄表面にFe<sub>2</sub>SiO<sub>4</sub>を形成する。

このようにして、赤錆が発生しにくい鑄物用鑄鉄の製造方法を発見。1990（平成2）年に「赤錆の発生しにくい鑄物用型銑の製造方法」として特許を出願し、1996（平成8）年に認可された（特許第2090454号）。

驚愕の生産性

SP銑のクレーターや気泡巣、赤錆問題が解決し、販売に注力しようとした頃、取引先の鑄物メーカー社長が久しぶりに当社を訪れた。「SP銑を使うようになり、最近は残業なしで従来通りの鑄物ができる。残業がなくなり給料が減ったと社員が嘆くから、毎日1,000円を祝い封筒に入れて渡している」のだという。

別の鑄物メーカーの社長からも「我が社も鋼屑からSP銑へ大きく材料転換し、今日に至っています。おかげさまで切削性が良いと好評を得て、業績を伸ばしています。お礼申し上げます」と丁寧な自筆の手紙が届いた。

このような生産性の向上や品質の向上は当社の想定外だった。「共晶銑ができていたのでは？」と予測

したのは、1993（平成5）年に加古川製鉄所から当社に転籍し、技術部長として銑鉄の開発を推進していた福島章である。当社の需要家の中でも、比較的大手のユーザーに依頼し、C（炭素）とSi（珪素）の含有量の変化と生産性について1年間測定を行った結果、確かに共晶銑ができていたという確証を得た。1994（平成6）年、「溶解効率の優れた鑄物用銑鉄」として特許を申請し、共晶銑をEP銑と命名。“E”は「Eutectic（共晶の）」から取った。さらに「キャストタロイ」という製品名を付け、市場に打って出ることとした。

EP銑の特許認可は2004（平成16）年。認可を得るまで10年の月日を費やした（特許第3577100号）。

EP銑の地球環境への貢献を証明したLCA

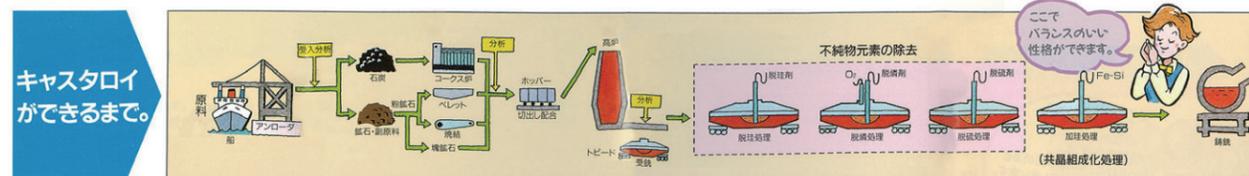
1970（昭和45）年、製品やサービスの産出に費やしたエネルギー消費を評価する方法として考案されたLCA（ライフサイクルアセスメント）は1980（昭和55）年以降、地球環境への関心が高まると、温室効果ガスの排出など、環境への影響を評価する方法に進化した。

1997（平成9）年、京都で第3回COP3（気候変動枠組条約第3回締約国会議）開催。翌1998（平成10）年、大阪工業会開催によるLCAセミナーに参加した勝は、「開発中の鑄物用銑鉄（EP銑）の評価に適切だ」と感じて神鋼リサーチ株式会社に相談し、共同でLCAの計算に着手する。同社研究員に協力を仰ぎ、算出に足掛け2年半をかけた。

その結果、鑄物製造の原料として多用している鋼加工屑をEP銑に変更し、鋼加工屑を粗鋼製造に使用すれば、鑄物・粗鋼製造過程全体のCO<sub>2</sub>削減につながる事が分かった。さらに、溶解条件や鑄造法の変更により、製造歩留まりの大幅な向上や、地球環境との調和・共生の実現も期待できる。LCA検証によって、EP銑がSDGsの達成に寄与できる可能性を見いだせたことは、大きな成果であった。



キャストタロイ（EP銑）などに関する特許証



不純物元素の除去過程（「キャストタロイ物語」神戸製鋼所、1994年）



日本鑄造工学会誌『鑄造工学』2010年12月号の特集「鑄造技術の進歩—21世紀の最初の10年を振り返って—」で「エポックメイキングな技術」として「高純度銑鉄鑄物用新材料の開発及びその実用化」が取り上げられ、その内容を編集して出版（福田博商店、2010年）

# たゆまぬ努力で企業価値を高め 「鋳物業界のために」の 思いでつないだ70年



代表取締役社長  
福田 孝

取締役会長  
福田 勝

監査役  
福田 真紀子

1953（昭和28）年、創業者・福田博二の個人商店としてスタートし、1955（昭和30）年に会社組織となった福田博商店。現在の福田孝社長まで、4人の社長がバトンをつなぎ、2025（令和7）年に会社設立70周年を迎えた。福田勝会長・真紀子夫妻、そして福田孝社長が集い、来し方と行く末を語り合った。

## 長太夫の恩返し

——1937（昭和12）年、尼崎製鋼所の社長だった井上長太夫氏は、久保田鉄工所（現・クボタ）の久保田権四郎氏と共に尼崎製鉄を設立しています。戦後、1953（昭和28）年に尼崎製鉄が再火入れを行った際、製鉄所内に出る荒銑などを販売する会社として、長太夫氏といと関係にあった博二が開業したのが、御社と伺っています。

**勝** 長太夫の母と博二の母は姉妹ですが、長太夫の父親が株や相場で散財して、長太夫の母は妹の嫁ぎ先である福田家に助けられていました。尼崎製鋼所や尼崎製鉄を設立後、博二に便宜を図ったのは、少年時代に世話になったことへの気持ちがあったんでしょうね。

終戦時、博二は東京にいて、戦災に遭って無一文で関西に帰っています。長太夫は尼崎製鉄を再興したとき、銑鉄の商権を博二に作ってやり、商売ができるようにしたのでしょ。

**真紀子** 私の実の母は長太夫の姉の子、姪にあたります。戦争で父が亡くなり、母は3人の子どものうち2人を親戚の養子に出し、私は小学1年生の春に福田家の養女となりました。

家は榎原神宮近くで、まだ会社ができる前です。会社設立後の1956（昭和31）年ごろ、中学2年生のときに尼崎に引っ越ししました。

本当は社名を「株式会社福田商店」にしたかったそうです。「博」をつけたのは、すでに「福田商店」という会社が登記されていたからだと言いました。

博二は人がよく腰の低い人で、周りに敵はいない感じの人でした。会社ができただけで、高度経済成長の時代が来ました。製鉄所も溶鉱炉の建設ラッシュで、尼崎の鉄鋼業界も活況があった。製鉄所が作った銑鉄を「分けてほしい」と次々お客さんが言ってきて、「へいへい」と応じ、博二の人柄の良さは時代に合っていたのだと思います。あと、「尼崎製鉄の長太夫がバックにいる」というだけでも、信用があったのでしょ。

## 大きな危機を乗り越えて

——福田会長の入社は1970（昭和45）年です。

**真紀子** 福田会長は結婚後、「福田博商店に入るのにはサラリーマンとして10年恩返ししてから」と言って、なかなか入社しなかったんです。大手家電メーカーに勤めていて、博二も「大きな会社にいるのに、こんな小さい会社に引っ張るわけにはいかない」と言うし。

**勝** 入社してまもない1971（昭和46）年にドルショックでしょう。円高に振れて、輸出に頼っていた日本経済は大変な状況でしたよ。その後、1973（昭和48）年に博二と長太夫が相次いで亡くなって大ピンチです。当時専務だった津田太郎が急遽社長に就任し、僕は専務になりました。社長を退くまで三十数年間、3回は「会社を整理せなあかんかも」と思いましたね。

1回目は、1973（昭和48）年の第1次オイルショック。鉄鋼業界は大きな不況に見舞われて、取引先が倒産して大変でした。博二の友人の葬儀なんかに行くと「まだ会社を続けてたんか」と言われたこともありました。





——その後、1977（昭和52）年には2代目の津田社長が亡くなられて、福田会長が3代目社長に就任されていますね。

**勝** 就任後、1979（昭和54）年には第2次オイルショック。そして1985（昭和60）年のプラザ合意で1ドル230円になって、2回目のピンチでした。このころには、鋳物の生産もキュボラから電気炉主流に変わって、鋳鉄の販売量も落ちています。

一方、自動車や弱電といった産業が発展すると、スクラップが出ますよね。鋳造会社はそれを材料として使うようになり、鋳鉄は売れなくなりました。これが3回目のターニングポイントです。

第1次オイルショックあたりで、鋳物の鋳鉄配合比が30%ぐらいだったのが、その後は20%、15%とどんどん減っていく。それで、鋳造会社に使ってもらえるような鋳鉄を作らないといけない、と考えるようになりました。

## 神戸製鋼所の技術者と新たな挑戦へ

——クボタの常務で、長太夫氏が戦前に設立した尼崎製鉄で技術責任者もされていた川端駿吾氏が、御社の顧問になられていました。川端氏の論文をヒントに、新しい鋳物用鋳鉄の開発に取り組むことになったんですね。

**勝** そうですね。昭和50年代に入ると、神戸製鋼所が尼崎製鉄所の溶鋳炉を休止・閉鎖するよう

になって、製鉄所にいた鋳物の技術職の人たちにもうに来てもらうことにしました。

西村氏、谷口氏、福島氏といった方々です。西村氏は1977（昭和52）年、谷口氏は1987（昭和62）年、福島氏は1993（平成5）年の入社です。

**孝** 私も谷口氏と福島氏とはご一緒しました。私が入社当時は福島氏が会社HPの立ち上げ準備を、谷口氏はポーラス鋳物の研究をされていた記憶があります。

**勝** 鋳物用鋳鉄の開発で特許も取りましたが、「問屋が特許なんて」というのが一般的な感覚です。メーカーの営業担当者に、一生懸命「もっとうちに売らせてくれ」って働きかけるのが、問屋の商売でしたからね。

そういう時代に、神戸製鋼所の所長たちに「こんなことしたい」と常々話していたところ、溶鋳炉を止める話になったとき、向こうから「うちの鋳物の技術者がいるけど、受け入れてくれるか」と言われて。

技術者の人たちと「材料開発しましょう」となって特許を4つか5つか出願して、2つ取れたのですが、それが今の飯の種になっているというわけです。

——問題意識を持って現状を打破する力と、人との出会いでピンチを切り抜けたのですね。

**勝** あとは大阪工業会（現在、大阪商工会議所と合併）という、経済団体の新人会のおかげです。川端氏や長太夫のすすめで会員になりました。公職追放で大阪の社長たちが経営から遠ざけられたとき、当時の大阪工業会の理事長吉野孝一氏が2世たちを集め、1947（昭和22）年に「新人会」と称する勉強会を結成しました。

僕は1975（昭和50）年にできた新たな新人会に入り、仲間と関わっている中で「会社を盛り立てたい」と思いましたね。

福田社長が1999（平成11）年に入社して、大阪工業会に入会したころ、僕はNEO企業活動委員会の委員長をしていました。関西の特長ある元気な企業50社にインタビューを行い、フォーラム

を実施して本にまとめる「キラリ！ 関西生き生き企業研究会」に取り組みました。

**孝** 私も研究会の一員として半数以上の企業を訪問し、多くの企業トップの方にインタビューをさせていただきました。企業経営の考え方なども学べて、大変貴重な経験となりました。

## “目に見えないもの”が価値になる

——福田社長は、御社が70年間継続できた理由と、このことを、どのようにお考えでしょうか。

**孝** 神戸製鋼所の鋳鉄を販売している商社は弊社以外にもありますし、日本製鉄も同じく商社を持っていますが、技術的なことをフォローできる会社は限られていると思います。

福田会長は前職のときから技術者でしたが、私自身は文系出身です。福田博商店に入る前は、損害保険会社で営業をしていました。保険という目に見えないものを扱い、当時は全社が同じ保険料で商品に違いが無い中、どうすれば他社と違いが出せるかということを考えて仕事をしていました。

弊社でもユーザーのニーズをつかまえて、メーカーに伝えていくことが大切だと考えています。そういう努力があるからこそ、差別化ができますよね。

また、福田博商店はいろんな鋳造会社とつながりがあり、「こういう製品がほしい」と相談された場合も「この鋳造会社にお願ひしたら、こういう品質のものをこういう価格で作ってもらえる」と、つなぐことができます。

——御社はコベルコ神戸スティーラーズのキャラクター「コーロクン」をかたどったモニュメントや、チームのタッチエンブレムなどの製作に携わっておられます。このプロジェクトも、鋳造会社とコベルコ神戸スティーラーズの間を御社が取り持って、成功しました。

**孝** 2017（平成29）年、神戸製鋼所神戸製鉄所の

第3号高炉休止時、神戸製鋼所から「コーロクン」モニュメントの製作を依頼され、弊社とお付き合いのある鋳造会社に製作をお願いしました。それがきっかけで、2021（令和3）年にはコベルコ神戸スティーラーズからタッチエンブレムの製作依頼のご相談をいただきました。

ホームゲーム開催時におけるチームのシンボルとなるものということで、鋳造会社と相談のうえ、両社からスティーラーズに贈呈させていただきました。弊社の強みを活かし、プロジェクトに関わったことは会社のブランディングにもつながりましたね。

産業の空洞化と共に、国内の鋳物メーカーも減っている。その中で生き残ってきたのは、神戸製鋼所と共に付加価値の高い高純度鋳鉄を開発してこれたことや、細やかなニーズに対応してこれたことが大きいと思います。

鋳物業界もクボタのような大手ばかりではなく、町工場規模の会社も多くあります。素材メーカーには見えない、そういう会社のニーズをつなぐことが存在価値だと思います。

弊社が神戸製鋼所と共同開発したキャストロイも、「作りたいものがあって、作ったから使ってほしい」じゃなくて、どうすれば効率よく鋳物が作れるかを考えて開発した商品ですから、思想としては同じですね。

**真紀子** 歴代の社長がそれぞれ色を出して、会社が変わってきているわね。

## 鋳物業界の中で会社の存在を高めたい

——お世話になっている取引先の方々や社員のみなさんに伝えたいことをお聞かせください。

**勝** 僕はもう何もないです。70歳で経営には口出ししないと決めましたから。「100歳まで生きて、寝たきりは1週間」がモットーです。

**真紀子** そんなにうまいこといきますかね。

**勝** 今は、尼崎将棋普及実行委員会で子どもたちへの将棋の普及活動をしたり、ブータンでの醤油づくりを支援したり。100歳までテーマを持って

活動したいです。

あとは、タカラベルモントがやっているタカラ杉山社会福祉会の理事です。高齢者施設への訪問美容などをやっている組織で、その一環で昨年末、ファッションショーにも出ました。かつて川端氏が理事長を務め、手伝いをお願いされたのが携わるきっかけです。

川端氏は1974(昭和49)年、大阪ロータリークラブの仲間たちと杉山社会福祉会を創立し、定年退職した高齢者が対象の菜園大学を運営していました。私は創立当初から菜園大学に関わり、その理事を経て理事長となり、その後、新たに再編されたタカラ杉山社会福祉会の理事として運営に関わっています。

**真紀子** 今はもう「何でも屋さん」ですね。

——福田社長からお伝えしたいことはありますか。

**孝** 福田会長が経験してきた大きな紆余曲折は、

(2025年3月10日実施)



杉山社会福祉会・北神菜園大学の最後の卒園式と32年間の感謝の集いを、有馬温泉古泉閣にて開催(2013年12月7日)

社長になってまだ十数年なので、経験していないと思います。それでもリーマン・ショックや東日本大震災、コロナ禍などがありました。その中で、気がつけば70年ということで、歴代の社長が基礎をつくってくださったおかげ、というのは大きいですね。

あと、メーカーさん、ユーザーさん双方がないとうちのような商社は成り立たない。ニーズを抱えたユーザーさんと、それに合ったものを作るメーカーさんがいてくれたおかげです。

我々も社員も「業界のために」という思いで努力してきたと自負していますし、社員はよく動いてくれています。そういうもの全てがあったうえでの、70年ですね。

変わっていく部分、変えてはいけない部分があると思いますが、業界の中で「会社の存在価値」を持ち続けられるようにしたいです。

## 福田勝・著作一覧

鋳物用原材料の開発にとどまらず、文筆家としての顔も持つ現会長・福田勝。その著作一覧は、鋳物関係書からゴルフ、旅行記など多岐に及んでいる。多方面での活動の軌跡を紹介。

冊子名	出版年	発行者
鋳物のエコエティカ(改訂版:1998年)	1998年	日本鋳物工業新聞社
鋳物の花見酒(鐵のライフサイクルアセスメント)	2002年	日本鋳物工業新聞社
鋳物のルネサンス	2003年	福田博商店
シングルも夢でない	2001年	福田勝
あなたならどうする	2006年	八聖塾
財団法人杉山社会福祉会45年史	2006年	財団法人杉山社会福祉会
北神菜園大学・塩田の里通信	2013年	財団法人タカラ杉山社会福祉会
鬼の細道行脚1	2017年	福田勝
鬼の細道行脚2	2018年	福田勝
鬼の細道行脚3	2018年	福田勝
鬼の細道行脚4	2020年	福田勝
井上長太夫傳	2023年	福田博商店



## ブータン・醤油づくりプロジェクト

2020年、ブータン国内初の醤油づくりの実現を目指し、「醤油づくりプロジェクト」が福田勝と西岡里子氏により発足。ブータンから実習生を受け入れ、神戸市北区道場町で農業を営んでいる谷夫妻の全面的な協力の下、醤油づくりを学んでもらった。その後、2024年4月にブータンにて醤油工場が完成し、同年11月にはブータン皇太后期待の下、初絞りも実現した。



前列が谷一美夫妻、後列が左から足立達明氏(足立醸造)、実習生、福田勝、西岡里子氏



長年の社会奉仕活動が評価され、福田勝が「のじぎく賞」を受賞



# 思い出アルバム

社員旅行やスポーツイベントなど、社員同士の絆や交流も大切にしてきた福田博商店。親睦を深めたひとときを捉えた写真を公開。

## 社員旅行

1985年ごろ 加賀百万石



2005年 熊野三山



2011年 中尊寺



2017年 飛騨高山



2019年 北海道



2015年 鹿児島



2008年 沖縄



2025年 城崎 (70周年記念旅行)



2009年 金沢



スポーツイベント

2004年 FG会



2011年 FG会



2019年 FG会



2022年 FG会



2024年 第100回FG会



野球チーム・ふくだ一ず集合写真



創立30周年記念祝賀会“感謝の宴”



創立50周年記念式典



ファッションショー

2024年 兵庫県  
シルバー人材センター主催  
「シルバースフェスティバル」

## 会社概要

商号 ..... 株式会社福田博商店 H.FUKUDA CO., LTD.

創業年月日 ..... 1953（昭和 28）年 4 月 1 日

設立年月日 ..... 1955（昭和 30）年 12 月 29 日

資本金 ..... 4,500 万円

- 会社の目的 ..... 1. 鋳物用銑鉄ならびに原材料の販売  
 2. 鋳物製品ならびに一般鋼材の販売  
 3. 製鉄原料の販売  
 4. 鋳造用設備全般（誘導炉・自動化機器など）の開発設計ならびに機器販売  
 5. 各種試験、解析、分析、測定調査

代表取締役社長 ..... 福田 孝

本社所在地 ..... 〒 660-0095

兵庫県尼崎市大浜町 1 丁目 43 番地

TEL : (06) 6416 - 5331 (代表) / FAX : (06) 6419 - 7668

## 事業紹介

### 原材料部門

鋳物用原材料「キャストロイ（EP 銑）」や SP 銑、鉄粉製品の  
 アトマイズ鉄粉などを中心に、生産性が高く、地球環境に貢献す  
 る原材料を販売。



### 鋳鉄素形材部門

ネットシェイプ（加工無し）の利点を追求して、鋳造メーカーと  
 連携し製品提案を行うなど、鋳鉄素形材市場を開拓。



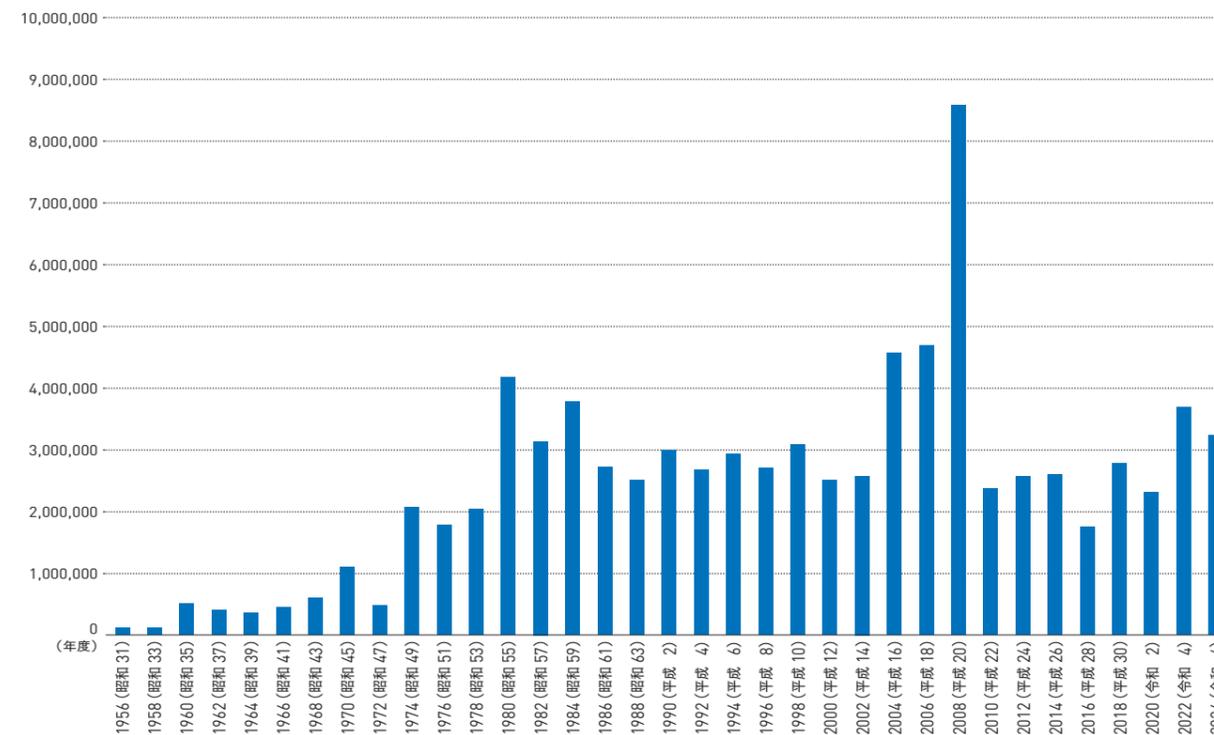
### 設備・試験・分析

誘導炉や自動化機器など鋳造用設備全般の販売、各種  
 試験、解析、分析、測定調査などの実施。



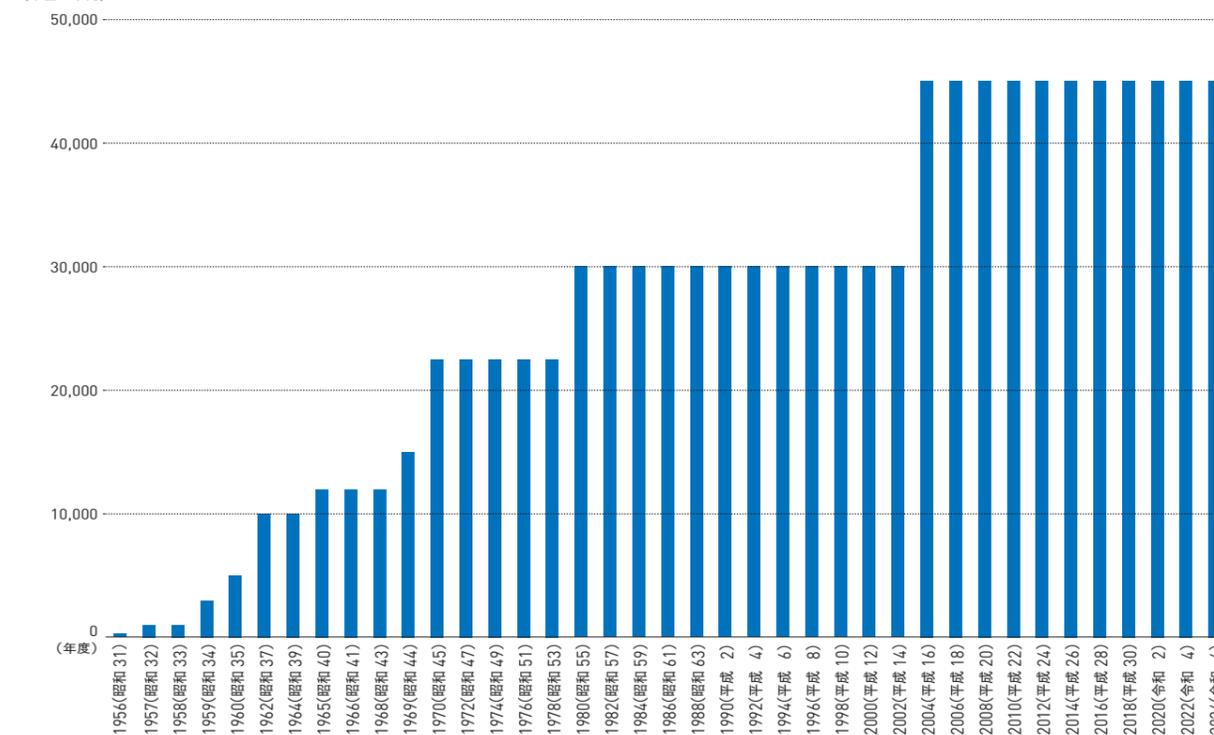
## 売上高の推移

(単位：千円)



## 資本金の推移

(単位：千円)

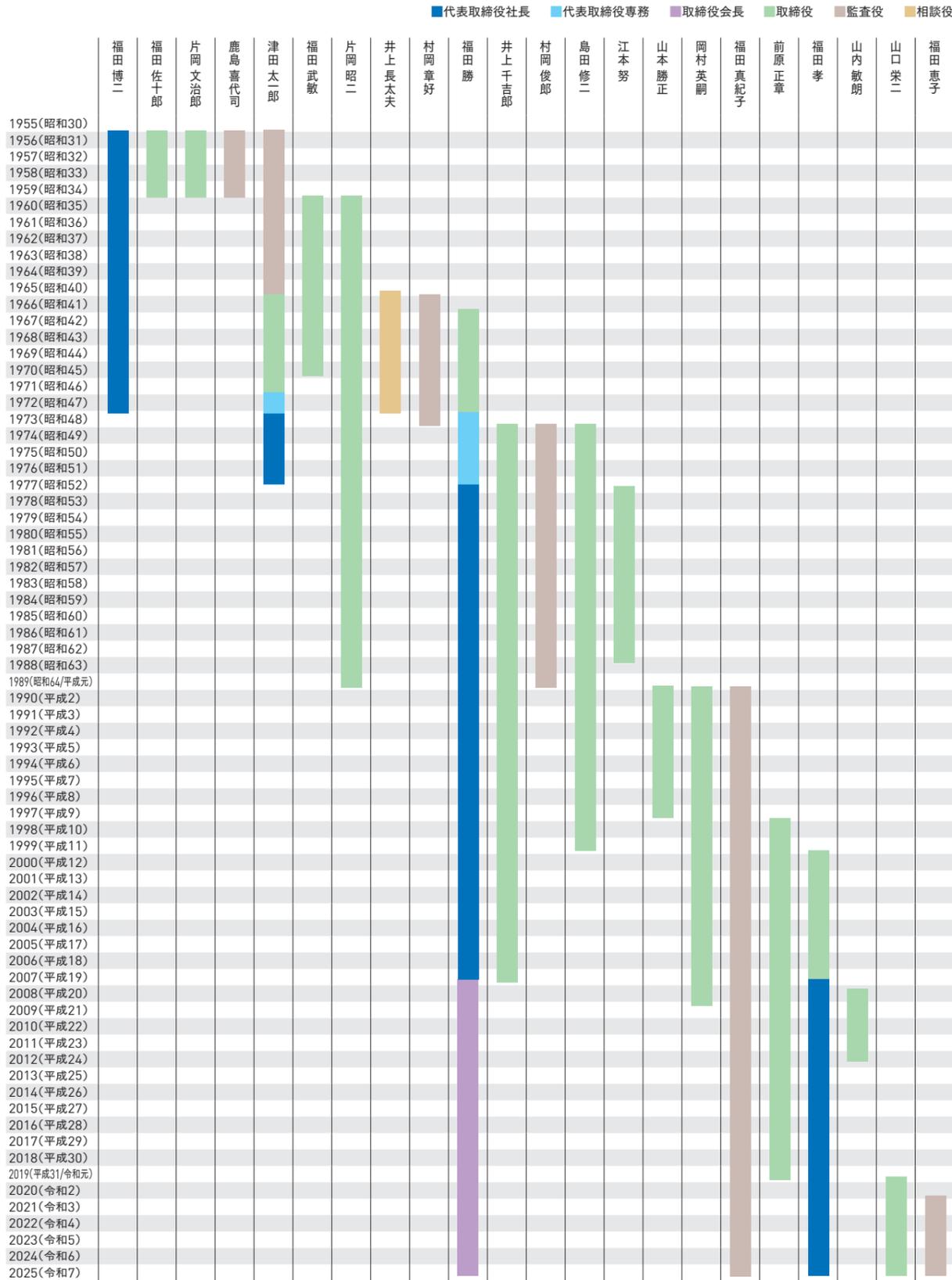


# 70年を振り返って

創立社長・福田博二及び大祖父・井上長太夫の勧めがあって1970（昭和45）年に株式会社福田博商店に入社。と同時に川端駿吾氏を紹介頂き、鋳物業界の現状や鋳物用銑鉄の将来等のレクチャーを受けました。1977（昭和52）年、社長就任と同時に株式会社神戸製鋼所OB技術者の当社への移籍を実現、将来の鋳物業界の材料の在り方等の調査・研究部門を立ち上げ、鋳物用銑鉄の研究・開発を推進してきました。1992（平成4）年、製鋼用銑鉄をベースにしてC（炭素）、Si（珪素）の含有量を調整、共晶銑（融点1,150℃）の開発に成功しました。その結果、溶解工程の驚異的生産性の向上に寄与することになりました。2004（平成16）年、溶解効率の優れた鋳物用銑鉄として特許3577100号等を取得しました。又、2010（平成22）年には社団法人日本鋳造工学会よりエポックメイキングな技術として「技術賞」を頂きました。業界には少なからず貢献させて頂けたのではと自負しています。

2025（令和7）年9月吉日  
取締役会長 福田 勝

## 役員任期一覧



## 福田博商店 70周年記念誌

2025（令和7）年9月発行

発行 株式会社福田博商店  
〒660-0095  
兵庫県尼崎市大浜町1丁目43番地  
TEL：(06)6416-5331（代表）/ FAX：(06)6419-7668

編集・制作 株式会社出版文化社  
大阪・新大阪 東京・日本橋茅場町 名古屋・金山

印刷 藤原印刷株式会社

製本 ブック・ジャパン株式会社

凡例  
 ・本書の記述は、原則として2025（令和7）年4月までとした。  
 ・用字用語は原則として常用漢字、現代仮名遣いに拠ったが、慣用句・固有名詞・専門用語などはこれに拠らないものもある。  
 ・会社名、団体名、役職名は当時の名称を用いた。  
 ・人名、会社、団体名の敬称は省略した。

